（別　紙）　　作成日　平成　30年　3月　23日

# 1　自己評価及び外部評価票

【　事業所概要（事業所記入）　】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 2092700059 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人　ラポール | | |
| 事業所名 | 特定非営利活動法人　ラポール　　グループホーム朝日新明館 | | |
| 所在地 | 東筑摩郡　朝日村　古見1938 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年1月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年3月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=20 |

【　評価機関概要（評価機関記入）　】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 非特定活動法人　福祉総合評価機構 |
| 所在地 | 長野県飯田市上郷別府3307－5 |
| 訪問調査日 | 平成30年3月8日 |

【　事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）　】

法人名「ラポール」の「お互いの心が通じ合う関係、私にとって今一番幸せな状態」という意味やグループホームの「人と人との繋がりが笑顔の輪になる」という理念を実践するために、利用者の皆様と日々学び、感じながら、思い思いの生活を送っています。朝日新明館は自然豊かな池の静かな所にある施設です。池は季節の移り変わりを感じさせる所で、春には桜が咲き、夏には小魚が生まれ、秋には紅葉に彩られ、冬には湖に氷が張りと、四季折々の季節を楽しむことができます。これからも利用者様の残存機能を最大限に活かし、自立支援に力を入れていきたいと思います。

【　外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）　】

職員は出勤するたび事務所の鏡の前で、毎日の身だしなみを整えるかのように、自ら笑顔になって利用者と接する準備をしている。その職員の笑顔の輪が利用者の笑顔を生み出し、利用者と職員の笑顔の輪が地域の方々の笑顔の輪になって広がっていく。このような思いが「人と人との繋がりが笑顔の輪になる」という理念になっているグループホームである。

そして、この理念を実現するために、職員は利用者のつぶやきや言葉をきめ細かく捉え、利用者の思いや残された力を見出し、発揮できるように支援している。利用者に自分でできることやしたいことを選択し、取り組むように手を差し伸べて援助していく様子を見聞きすることができ、積極的に自立支援を目指している姿が素晴らしい。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（　　）

| | 項目 | 取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと） | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の２/３くらいの |
| | | | ③利用者の１/３くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に１回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の２/３くらいが |
| | | | ③利用者の１/３くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の２/３くらいが |
| | | | ③利用者の１/３くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の２/３くらいが |
| | | | ③利用者の１/３くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の２/３くらいが |
| | | | ③利用者の１/３くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の２/３くらいが |
| | | | ③利用者の１/３くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |

| | 項目 | 取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと） | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の２/３くらいと |
| | | | ③家族の１/３くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | ①ほぼ毎日のように |
| | | ○ | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | ①大いに増えている |
| | | ○ | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（11,12） | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の２/３くらいが |
| | | | ③職員の１/３くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の２/３くらいが |
| | | | ③利用者の１/３くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | ②家族等の２/３くらいが |
| | | | ③家族等の１/３くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

（別　紙）

# 自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「人と人との繋がりが笑顔の輪になる」という理念を見やすい玄関に掲げ、それを基に立てた目標が達成できるように職員や管理者は日々努めています。 | 「人と人との繋がりが笑顔の輪になる」という理念が表情や行動として表われるように、職員が出勤した時は、必ず鏡で自分の姿を確認したり、互いに声をかけ合ったりして実践に取り組んでいる。このように、利用者に笑顔で対応している職員は素晴らしい。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | グループホームの行事に招待したり、地域の行事に参加したり、消防訓練を行ったりして地域の方との交流を図っています。また、中学生の職場体験の受け入れも行っています。 | 地域の「火祭り」「敬老会」「博覧会」などに出かけたり、グループホームの「展示会(夏祭り)」に参加を呼びかけたりして、地域の方との交流を図っている。また、認知症カフェ（交流サロン）へ積極的に参加し、交流を広げている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 朝日村地区地域ケア会議へ参加したり、認知症カフェ（交流サロン）等へ協力し、参加したりしています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では「利用者様の現況報告」や「事業所における行事等」について話し合い、実践するようにしています。 | 地域の区長、民生委員、朝日村と山形村の職員、家族代表をメンバーに加え、年6回運営推進会議を開いている。そこでは、展示会や家族会、避難訓練等が話し合われ、多くの意見が出され、役立てることができた。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 村役場の会議への参加し、施設の実情を報告して、相談し、お願いしています | 朝日村地区地域ケア会議へ毎回出席したり、認知症カフェ（交流サロン）へ積極的に参加したりして、協力関係を築くように取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関する研修を法人全体で行っています。また、朝礼時やミーティング等において議題として示し、マニュアル等を用いて研修を行っています。 | 自由に外出する傾向がある利用者が2名いる。玄関を見回ったり、一緒に外に出たりしている。また、玄関にベルを付けたり、緊急の場合は施錠することもある。家族の同意を得て、車椅子のベルトを付けることもあるが、職員で解除に向けて話し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 職員の疲労やストレスが利用者様に悪い影響を及ぼすことがあるので、職員の業務負担の軽減を考なければと思います。また、常に虐待防止について話し合いを持つようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度のご利用者様が2組あります。それなりに支援をさせて頂いております。また、勉強会も行っていきたいと思います。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者様やご家族様には契約書の内容を説明し、質問にはきちんと時間をかけて納得して頂けるようにしております。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 普段の生活の中での言葉を聴き取るようにしています。また、ご家族様の面会時には必ず時間を頂き、お話をさせて頂いております。その内容により、朝礼時やミーティング時に職員と共有しています。 | 「展示会(夏祭り)」の折に家族会を開き、家族と職員とが一緒になって話し合っている。お金の管理など、家族からの希望や要望等が出てきている。また、管理者は「業務日誌」などに書かれた利用者や家族の言葉から要望や意見を汲み取って聴き取り、反映できるように努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の法人内での管理者会議、グループホームでの研修会や職員会議等の場において、運営に関する話し合いをするようにしています。 | 月1回の職員会議では、職員の異動や人材確保、ケアについてなど、いろいろな意見が多く出てきて、活発な話し合いになっている。このような意見等は、管理者が法人の管理者会議に議題として出して話し合われ、反映できるようになっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員各自が向上心を持ち働くことのできる職場であることが質の向上に繋がっていくことと思います。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外での研修で、介護技術やご利用者様に対しての接遇等について学ぶ機会を設けています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 各グループホーム相互でサービスについて情報の交換を行い、質の高いサービスを行えるようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご本人・ご家族様と話し合いを行い、グループホームでどのような生活をしていきたいかを確認し、ご本人に対するケアの参考にしています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前後に、現在困っていることや不安に思っていることなどをご本人、ご家族様より聴き取りを行い、サービスにつながるようにしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者様の個々の能力、趣味、生きがいを日々の生活の中から見出し、グループホーム内での支援方法を考えています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 会話を重視して、利用者様ご本人の「声」を大切にし、職員は利用者様との良好な関係構築に努めています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様との面会の大切さや難しくなっている「家族との絆」を話し合い、両方の目線に立ったご本人への支援を考えています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | グループホームへの訪問や面会は、いつでも来て頂くことができるようにしています。電話等も直接ご本人につなぐようにしています。また、こちらからも出かけるようにしています。 | 「面会記録」にも見られるように、利用者の友人・知人の訪問が多くあり、居室や大広間などを使って気楽に過ごしてもらっている。また、家族や親戚などが見えた時などは、そのまま外食や買い物に出かけて行くこともある。お正月やお盆の外泊なども支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が利用者様同士の輪に入り、会話やレクリエーション等を行うようにしています。（耳が遠い方や認知症の症状により意思の伝達等困難な場合があるため）　また、お互いの思いや感じていることなどを伝え合うようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された後も、移動先の施設への訪問や面会、ご家族様との連絡も行っております。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃のケアの中より得られた利用者様の言葉を書きとめて意向の把握を行い、職員会議や朝礼時、カンファレンスの場において職員間で話し合い、共有するよう努めています。 | 「個人記録」に利用者のその言葉通りのメモを記録し、利用者の希望や意向を汲み取るようにしている。「何をしたいですか、どこへ行きたいですか、何を食べたいですか」などを聴き取り、職員で共有している。また、センター方式の「暮らしの情報」や入居前の情報を活用している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に担当ケアマネージャーより情報の提供を頂いています。場合によってはご本人の情報をご家族様より聴き取り、より細かな情報の収集を行っています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様の日々の様子や変化を職員は「表情や言動」を観察して捉え、引継ぎの場において共有して、その後のサービスの結び付けています。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族様の意見や要望を聴き取り、ご本人の現在の状態と照らし合わせ、各利用者様ごとに担当職員を決めて計画作成を進めています。職員間で意見交換やカンファレンスを行い、ご利用者様がその人らしく暮らし続けるための現状に即した介護計画になるように工夫しています。 | 利用者一人ひとりに職員一人ひとりが担当する「ケース担当制」をとって、その担当者からのちょっとしたメモなどを計画作成担当者が集めて、介護計画のもとを作成している。「介護計画モニタリング表」を使ってカンファレンスを行い、利用者に合った介護計画になるように工夫している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 「個人記録」や「業務日誌」等に記入するだけでなく、職員会議や朝礼時に口頭にて再確認して情報を共有した後実践に移し、介護計画の見直しに役立てています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 変化時に生まれるニーズに対しては、そのたびの支援やサービスで対応しています。また、同一法人内での職員間の協力やご利用者様の交流も行えるような体制ができています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行事等へのご家族様の協力、地域の方の訪問来所、地域交流サロンへの参加等により、ご利用者様の生きがいになるような暮らしを目指しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | グループホームの協力医療機関はもとより、ご本人、ご家族様からの希望があれば、それ以外の医療機関にも受診ができるようにしています。また、ご家族様の都合により、受診の際の付き添いが困難な場合は、職員が付き添いをして受診できるようにしています。 | 利用者や家族の希望によって、月2回往診してくれる協力医療機関が1ヶ所、月1回往診してくれる協力医療機関が2ヶ所ある。また、緊急の場合は、いつでも受診できるように支援している。歯科医には通院して対応している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | かかりつけ医の看護師と常に連携し、相談やアドバイスを受け、適切な受診・往診の支援をしています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院のソーシャルワーカーとの連携を図り、現状を把握して退院後のご本人の受け入れについて相談し、方法を考え職員に伝えて、円滑な退院後の受け入れ準備を行っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | あらかじめご家族様と医療機関と話し合いを行い、終末期の対応方法を考え、その時に備えています。また、関係医療機関と話し合い、終末期における看取り介護の支援をしています。 | 利用者が高齢化し、重度化してきている状況であり、本年度1名の看取りを行ってきた。家族と協力医と連携して終末期の対応について話し合っている。今後は、さらに利用者の「リビングウィル」を大切にして、家族と一緒に作っていく方針である。 | 利用者の「リビングウィル」を大切にして、家族と一緒に作っていくことが望まれる。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時には職員緊急連絡網により、詳細な情報を伝達し、応急手当、初期対応の実践を行っています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 昼間における避難訓練はもとより、夜間想定の災害発生時の避難誘導訓練も職員一人ずつ（夜勤を行う者）行い、夜勤一人体制時でも対応できるようにしています。消防署の意見指導の下、訓練を行っています。また、災害時に備え非常食、飲料水、備品の準備もしています。 | 6月に昼間の初期消火訓練として、通報してから広場に避難する訓練を行った。また、夜間想定で、職員一人で通報してから避難する訓練も行った。地域の方や区長、役場の職員や民生委員の参加を得た充実した訓練であったようである。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 長く人生を送ってこられた方々に対し、個々の人生や生活歴等を配慮した声かけ、言葉遣いを行うよう、職員会議時や法人内研修の場において話し合っている。また、接遇に関しても議題に挙げて話し合いを行っている。 | 言葉遣いでは、利用者に対して名字ではなく名前で呼んでいるが、「親しき中にも礼儀あり」と言うように、人生の先輩として接するようにしている。特に、排泄時に失敗した時の声かけに留意し、自尊心を損なわないように励ましの言葉かけをしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々声かけを行い、自己表現が苦手なご利用者様には表情や行動等を観察しながら、自己決定できるように支援しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の行動はご本人のペースに合わせて過ごして頂くようにしているが、声かけをし、行動を支援しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自立されている方は、ご自身の思い通りの服装に着替えて頂けるが、介護度によっては職員が声かけを行って選んで頂き、着替えの介助を行っています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事に関しては、一連の作業を通した利用者様の力の発揮の場（食材の下ごしらえ等）を設け、生きがいにつながるようにしています。また、メニューに関しては、利用者様と希望する献立を話し合っています。食事を摂る際は、職員が一緒に食事をすることにより会話も弾みます。後片付け、台拭き、食器拭き等も行って頂いております。 | 食事は、まとめて買い出しをして野菜を多くした献立になるようにしている。また、昼食を重視して、夕食は消化がよく、夜、安眠できるような献立になっている。希望献立を活かした行事食にしたり、体調に合わせたお粥や刻み食にしたりしている。利用者は残さず、おいしく会食を楽しんでいた。また、食事は利用者にとってその力を発揮する良い機会であり、いろいろな役割分担して準備や後片付けに取り組んでいるその姿は生き生きとしていた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取量や水分摂取量を個々に毎回記録し、一食のだいたいのカロリー量や塩分量を把握しています。水分はこまめに摂取して頂き、場合によっては飲みやすいスポーツ飲料等で対応しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 三食毎回、口腔ケアを実施しています。グループホームの計画作成担当者が歯科衛生士の有資格者なので、利用者様ごとに口腔内チェックを随時行っております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 毎日、利用者様ごとに24時間の排泄チェックの記録を行い、排泄パターンや時間を確認し、なるべくトイレにて排泄を行って頂けるよう、職員はトイレ誘導を行っています。 | 排泄の自立に向けて、利用者に合ったパンツを使用している。(布パンツ使用者2名、リハビリパンツ使用者7名）また、自分で排泄できる利用者は5名、介助が必要な利用者が4名なので、排泄チェックをもとに、それぞれに合ったトイレ誘導を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 適度な運動や水分、野菜類の摂取を行っており、毎日の排便チェックも行っています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ご本人の希望も取り入れ、利用者様は時間にとらわれることなく、ゆっくりと入浴して頂いています。 | 利用者は1週間に2回は入浴を楽しむことのできるように工夫している。2人介助の利用者はいないので、職員の負担も少ない。排泄で失敗した時などは、自尊心を損ねないようにシャワー浴を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は、利用者様が居室内に留まることがないように声かけを行い、なるべく意欲的で活動的な生活をして頂き、夜間はゆっくりと休んで頂けるようにしております。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的、用法、用量、副作用等をよく理解した上で、服薬支援を行っています。また、症状の変化については、常にかかりつけ医や看護師と連携し、支援しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 掃除、食事の片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ等を役割として支援しています。また、楽しみ方としては、大広間での個別の楽しみ方を支援しています。寒い冬の気分転換にもなっています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日にはグループホーム前の広場にて日光浴をしたり、地域の行事への参加やグループホームの車でのドライブ等を行ったりしています。また、ご家族様と外出する方も多く、買い物や外食を楽しまれています。 | グループホームの周りは、池を囲む自然に恵まれ、散歩や日光浴を楽しむことができる。また、冬場、外に出かけられない時には、大広間に行って、テレビを見たり、本や新聞を読んだりしながら気晴らしをしている。そして、体操やカラオケをして楽しんでいる。車椅子対応の自動車を利用して、花見見物や地域の行事に参加したり、外食を楽しんだりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的には金銭等は持ち込まないことが原則であるが、もし、ご本人やご家族様の了解が得られれば、金庫にて保管し、ご本人の必要時に応じて使用できるように支援しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族様や友人からの電話や手紙等は取次を行い、返事の支援も行っています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間には利用者様が作られた作品等をなるべく飾り付けております。建物が広いため利用者様は、お互いに不快な思いや混乱を招くことなく過ごしております。また、玄関先に出たり大広間の窓を眺めたりするだけで自然の景色を楽しむことができます。 | 広い玄関、広い廊下、広いトイレ、広い食堂、そして30畳以上もある大広間は、改築前の旅館の名残を伝えている。特に、大広間にはいろいろな椅子やソファーが置かれ、利用者の洗濯たたみなどの仕事の場であり、ゆっくり休む場でもある。窓からは四季の池の景色を望むことができ、写真や作品などで飾られた空間では、居心地良く過ごせる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 当グループホームには畳の大広間があるので、様々な場面で有効に活用し、利用者様が思い思いにゆっくりと過ごして頂いております。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室は広く、収納も個々にできるようにしてあります。ご本人やご家族様の希望により、馴染みあるものを持ち込まれています。それにより自宅での生活に近づける工夫がなされています。 | 各居室は広く、大きさや形が変わっている。また、1部屋は仕切りのある簡単な作りになっている。それぞれの居室には、利用者や家族の希望を活かした物があり、配置や飾りを工夫した居室でもある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | グループホーム内は広く、居室からの移動も歩いて来られる方が多いが、転倒の危険性も考えられます。事務室がちょうど廊下を見渡せる位置にあるので、そこから移動の様子を見ることができ、また、場合により誘導介助の指示も職員に伝えられ、安全に生活ができるよう配慮しております。 | | |